

## ICTを活用した多職種における情報共有（多職種ネットワーク）について

## 1 導入している多職種連携システム名

Medical Care STATION（メディカルケアステーション（MCS）  
（運営会社：エンブレース株式会社）

## 2 実施主体

一般社団法人世田谷区医師会及び一般社団法人玉川医師会

## 3 導入経緯

医療・介護関係者が情報及び通信に関する技術（ICT）を活用して、在宅療養患者にかかわる医療・介護の専門職が連携して効果的に情報共有を行い、在宅療養患者を支える体制を整備することを目的に、東京都からの受託事業により、東京都医師会が導入・整備した。

世田谷区内においては、平成28年度より、世田谷区医師会及び玉川医師会が主体となり、MCSを導入した。両医師会が中心となり、共通した運用ポリシーを定め、運用している。

## 4 主な機能

## (1) 患者情報の共有

医師が、患者を支える多職種（医師会医療機関、近隣の関連病院、歯科医療機関、薬局、介護事業所等）を招待し、ケアチーム内でリアルタイムに患者情報を共有する。

## (2) 個人情報を含まない情報の共有

個人情報を含まない情報共有のツールとして、全体、職種内、地区等で講座やイベント等の情報を共有する。（地区グループには、原則として医療職については地区連携医から、介護職にはあんしんすこやかセンターから招待する。）

## 5 利用の流れ

登録の申請メールアドレス（個人ごと）により登録する。地区医師会にMCS利用申込書及び守秘誓約書を提出し、MCSにログインするためのパスワードを取得する。

患者を支えるケアチームへは必要に応じて医師が招待し、登録者全員で共有する情報は、随時届く。職種や地区でグループを組み、その中で情報をやり取りすることも可能である。

利用料は、無料。

## 6 登録状況（令和4年10月12日現在）

・ユーザー総数 1,738人

（医師200人、歯科医師69人、薬剤師152人、看護師287人、ケアマネジャー318人ほか）

・患者グループ総数 2,319グループ

・医療介護関連施設総数 855か所